

提携米通信

2019年8月号・黒瀬農舎

暑中お見舞い申し上げます。



1000羽のマガモを600羽に減らしてみました。

山形から除草の助っ人・マガモの精鋭部隊到着。昨年は、マガモの活動で稲が痛めつけられたので、今年は思い切って減らしてみました。到着時は100g程度のマガモ君たち。帰る時は、10倍の1Kg以上にと、50日ほどの間で急成長します。2019.6.7 撮影

今年は九州などでは早くから大雨被害などが発生しているようですが、当地は、種蒔き以降ずっと好天が続いています。

このお陰で稲はすこぶる順調に成長していますが、雑草も例年以上に旺盛繁茂で、その対応に少々手こずっています。

さて、山形のカモ農場で孵化後に1週間から10日餌付けしたマガモ君たちが6月7日に到着し、3、4

日田圃の隅に作った餌場で飼い慣らしてから7月20日過ぎまで放鳥しました。

マガモの活動のお陰で、田圃の表土が攪拌され、芽切ったばかりの雑草の大半は退治されます。当人たちには多分「除草作業」の意識はなく、単に餌を求めて昼夜の別なく、田圃の中を泳ぎ回っているだけなのでしょうが。

でも元気すぎると、除草効果は高いですが、稲を傷めますので、今年は投入羽数を6割程度の少数精鋭体制で臨みましたが、やや少なすぎたのか、取り残し雑草が多いようでした。

残った雑草はパートの女性の皆さん頼りです。以前は、毎日20人、30人と来てくれましたが高齢化で、今は5、6人頼むのがやっと。雑草との闘いは秋の収穫までもつれ込みそうです。

お盆頃には、一斉に穂が出ますが、これからは台風の時期、当地は雨の少ない台風が来ると、潮風によりひどい塩害が出ます。来襲のないことを祈りたくなる季節到来です。



カモの成長も天候に左右される。

カモの成長は、稲など作物と同じ。気温が高いと成長旺盛。好天続きの今年は、特にすくすく育ちました。餌を多く与えると、働きません。餌が少なすぎると、稲の若芽まで食べ、稲を傷めます。給餌の按配もカモ管理の要諦。2019.7.10 撮影

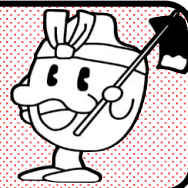
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

★我が農舎は電話受付の専
任スタッフはおりません。
日中は倉庫作業等で留守
電受けが少なくあります
がご了承をお願いします。
★電話は日祭日や、夜間も
OKです。
★お米の贈答利用も宜し
くお願いします。

★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。

★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

乗用除草機・マガモ管理・ブナ植え予告

乗用除草機の製作成功したもの・・・

当地の田圃の悪条件は、並大抵ではありません。
乗用型除草機は、幾つものメーカーが市販していますが、当地の田圃で沈車しないで使える物は皆無です。

例えば、農機トップメーカーが田植え機のモデルチェンジを行って、当地に販売すると、改良したはずが、使いものにならず、当地への販売を1、2年ストップ。悪戦苦闘して改善し、再販売にこぎつけることが度々あるのです。

田圃の土壌条件が、柔らかくて深い、その上、土が粘る。実際に投入しないと成功するかどうかわからないのです。

また、これを試すには、一年で10日間位しかない。その作業時期に限られる制約があるのです。

今回の自作除草機開発の場合でも、最終調整は、田圃に入れてからでなければ出来ないので。工場プラントのように、いつでも実験できません。その期間の幅は、3日か4日。その時期、その時しか出来ないのです。

ですので、今回も日中に使って、修正点を見つければ、翌朝の作業までに、切断、溶接などの鉄鋼作業に夜を徹することになります。そして、翌日使って、また、その夜は手直し工作。この連続です。

先ず第一の難関「沈車しないようにすること。」は、予想以上に成功。次の「除草効果を上げること。」は、最後になって、やっと成功できたようですが、除草は適期から3日遅ければ、雑草は3倍残ります。

結果としては、期待を超える成功でしたが、微妙な調整は作業にあわせて行うしかなかく、除草効果向上機能は、数日遅れてやっと成功。今年は残草が多くなりました。来年はこれで、もう大丈夫でしょう。



マガモ君の管理のコツも年々新化

除草にカモを利用することは、誰が始めたものか定かではありませんが、30年ほど前から各地で行われています。

カモと言っても色々な種類がありますが、一般に使われているカモは「合鴨・アイガモ」です。合鴨は言葉通り、アヒルとマガモを交配させた種で、種鴨場によってアヒルに近い合鴨から、マガモに近い合鴨まで幅広い差があります。

我が農舎ではアヒルが交配されていないマガモ（来歴：野生のマガモの卵からのヒナ）を使っています。マガモは合鴨よりも一回り小さいですが、活動は合鴨よりも活発敏捷です。でも、どちらが良いかは人により評価が分かれます。

カモの除草で一番の難問は、狐、イタチ、野犬に襲われることですが、幸い当地にはこれの被害はほとんどありません。

次の難問は、カラスや鷹、トビです。鴨が田圃の水面で活動している時に、カラス等が来ても、流石に「水鳥」鴨はほぼ逃げ切り大きな被害にはなりません。

しかし、鴨が陸の餌場や羽乾かしを行っているときには、一日に10羽も20羽も殺されて、放置しておれば全滅します。

日曜大工店などでカラス避けの小道具が一杯販売されていますが、どれを使っても、効果は1日か2日でほぼ効き目はなくなります。でも、クレー射撃で数パーセントしか当たらない私であっても、猟銃を持っていけば、カラスは直ぐに逃げ出し、効果抜群です。カラスは利巧そうでは実は間抜けです。

猟銃を持った者が、いなくなったり、猟銃を持たずに田圃に出向けば、人がいても平気でさって行きます。

我が農舎では、常にカラスを追っ払うようにしていますが、多い年は300羽ほど、餌場などをネットで覆うようになってからも100羽余りの被害を受け、困っていました。

そこで、今年からは、餌場や鴨が陸で休む所は全部防鳥網で覆うようにしたら、ほとんど被害が出ないようにになりました。「すべてを覆う」ということは、作業も経費も多大のように感じますが、最近では、1枚数百円の安価で軽量軽便な網が出回っており、10ヘクタールの放鳥で網代が数千円で収まるようになりました。



昨年第26回ブナ植え
2018.11.3撮影

文化の日のブナ植え・他所にない熊汁ですよ！

去る7月12日、文化の日に植えたブナの草刈りに山に向いました。この日は当地は久方ぶりの雨。

山は田圃よりも、陸上競技場よりも、涼しくて過ごしやすいうように思われますが、これは全くの幻想。夏の下草刈りは、風も当たらず、濡いきれで、それはもう過酷の極限。今年は雨。身体中びしょ濡れですが、灼熱の太陽のもとよりも遙かに快適です。

ところで、今年も文化の日に27回目のブナ植えを行います。まだまだ先の話をご案内する訳は、日程確定の行事ですから、早割りの航空券をお手配頂きたいからです。

例えば、伊丹-秋田の片道普通運賃 3万5千円余りが、早割りで手配すれば4分の1以下の8千円代。（羽田-秋田は1万2千円。）

11月2日夜は我がロッジで前夜祭を行います。（どこかへ廻られる方は、前後日の宿泊もOKです。）

今年は、前夜祭用に、ツキノワグマの肉も確保しています。春の山菜の時期や、秋の果物、きのこ狩り時期の「有害駆除」で仕留めた熊は、脂が少なく美味しくありません。また、ジビエ料理店は珍しいだけで美味しいと感じることは少ないです。友人が、脂と肉の乗り切った12月に仕留めた月の輪熊です。その上、マタギ直伝のこの熊汁は、他では味わえない傑作です。どうぞご期待下さい。そして、お待ちしております。